

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 3

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」を一過性のものに終わらせることなく、その理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日、花の万博跡地の鶴見緑地に設立されたのが（財）国際花と緑の博覧会記念協会です。

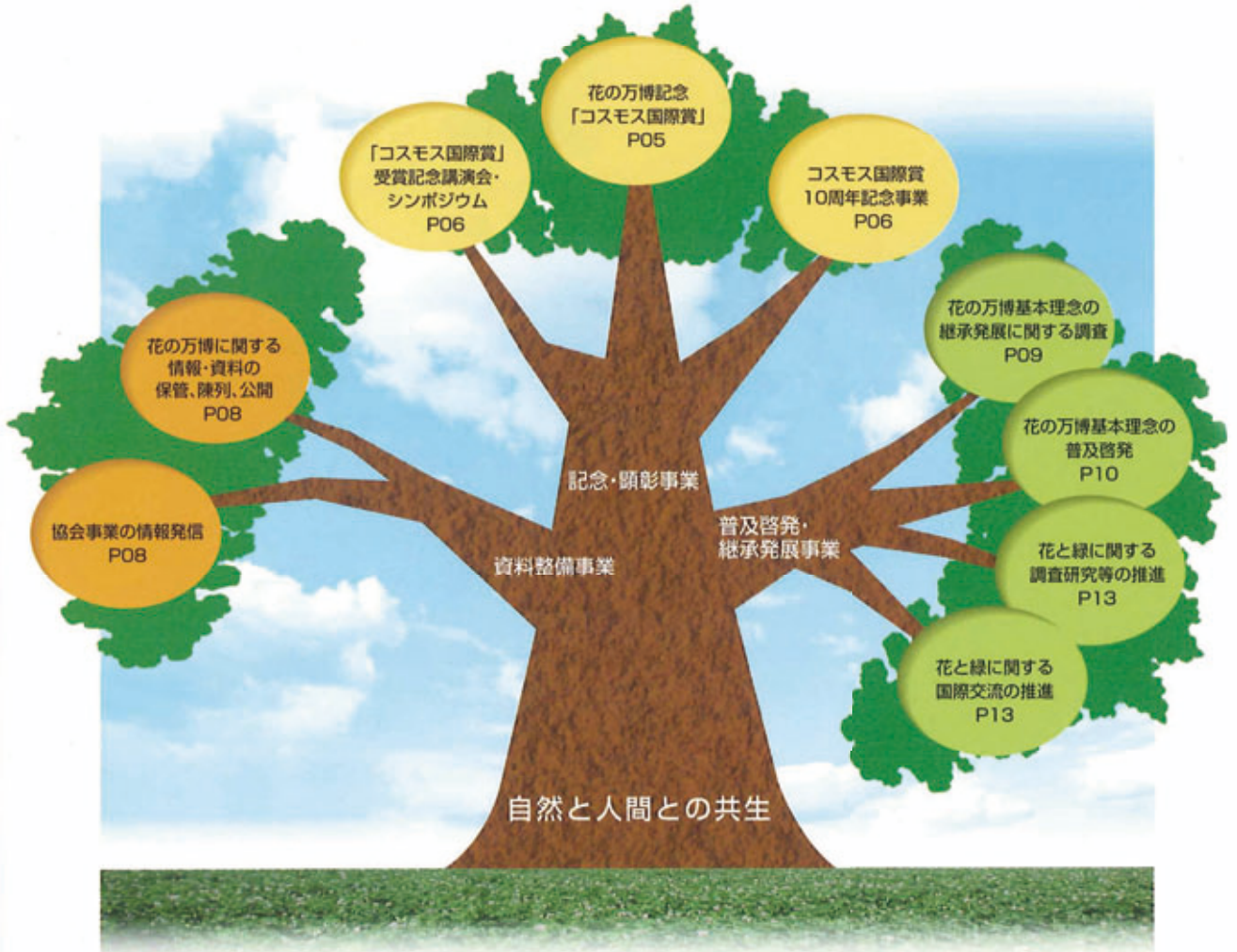
以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2003年度は、記念協会の主要事業である「コスモス国際賞（第11回）」に、花生物学分野のバイオニアであり、地球における生物の多様性の重要性を世界で最初に提起した科学者の一人であるピーター・レーブン氏（米国・ミズーリ植物園園長）を選出し、授賞式ならびに記念講演会・シンポジウムを開催しました。また、普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな形態による活発な活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

2004年度におきましても、これまでの実績を踏まえながら、事業および組織運営の強化・刷新を図っていきたいと考えております。新たな事業についても積極的に取り組み、理念の実現と新しい世紀に相応しい新しい発想を生み出せる組織であり続けたいと思います。

皆様方の当協会に対するさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

国際花と緑の博覧会記念協会(以下、記念協会)は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えられる。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2003年(第11回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内11名、海外3名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)および学識経験者10名(国内7名、海外3名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成15年(2003年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会開催(平成15年1月24日)

平成15年の選考の手続き、推薦人、今後の日程を決定。

第1回選考委員会開催(平成15年1月24日)

第1回賞委員会の方針に基づき、世界45カ国の学識経験者824人の推薦人に推薦を依頼するとともに、今後の日程、選考作業の予定等を確認。

第2回・第3回選考委員会開催(平成15年6月2日、6月4日)

選考対象の126件の推薦に基づき、慎重な選考作業を実施。

第2回賞委員会(平成15年7月7日)

2003年コスモス国際賞受賞者にピーター・レーブン博士(米国 ミズーリ植物園園長)を決定。

第37回理事会開催(平成15年7月17日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



第11回コスモス国際賞受賞者

ピーター・ハミルトン・レーブン博士

米国・ミズーリ植物園園長

花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。また人類が生存しているためには、地球における生物の多様性を保全することが不可欠であることを世界で最初に提起した。

<平成16年(2004年)受賞者の選考>

第1回賞委員会開催(平成15年10月20日)

2004年(第12回)受賞者の選考手続き、推薦人、今後の日程等を決定。

第1回選考委員会開催(平成16年1月28日)

今後の日程、選考作業の予定等についての確認をするとともに、世界45カ国の学識経験者827人の推薦人に推薦を依頼。

2003年(第11回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客および招待者約500名の参列のもと、厳粛かつ華やかに開催しました。また、祝賀演奏等も行いました。

授賞式

日 時：平成15年10月20日(月) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール [大阪市中央区]

出席者：約500名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 来賓紹介(コスモス国際賞受賞者吉良龍夫博士、アメリカ総領事館ポール・ハワード領事、農林水産省市川一朗副大臣、国土交通省齋藤滋宣政務官) 主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



記念レセプション

日 時：平成15年10月20日(月) 午後5時30分～午後7時

場 所：ホテルニューオータニ大阪 [大阪市中央区]

出席者：約450名

記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

コスモス国際賞 受賞記念講演会 コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2003年受賞者ピーター・レーブン博士による講演を実施しました。

	●大阪	●東京
日時	平成15年10月21日(火) 13:30~	平成15年10月25日(土) 13:30~
場所	MIDシアター [大阪市中央区]	千代田放送会館 [東京都千代田区]
テーマ	「生物多様性の持続的利用と明日の地球」	
シンポジウム	パネリスト ピーター・レーブン博士 賀 善安 (南京植物園教授) 加藤 真 (京都大学教授) コーディネーター 加藤雅啓 (東京大学教授)	パネリスト ピーター・レーブン博士 賀 善安 (南京植物園教授) 山岸 哲 ((財)山階鳥類研究所所長) コーディネーター 岩槻邦男 (放送大学教授)
参加者	約300名	約200名



2003年コスモス国際賞報告書の作成

2003年(第11回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、構成、授賞式および記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 75頁)を作成(1,300部)し、国内外の関係者に配付しました。



コスモス国際賞10周年記念事業

コスモス国際賞10周年記念事業

コスモス国際賞の創設10周年を記念して、歴代の受賞者の研究業績、記念講演会、シンポジウムなどを採録した「コスモス国際賞10周年記念誌」(日本語版 A4版 256頁)を発刊し、全国の図書館ならびに関係者に配布しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成15年4月現在

委員長	有馬朗人	参議院議員
副委員長	長倉三郎	日本学士院長
委員	西塚泰美	神戸大学前学長
委員	日高敏隆	総合地球環境学研究所長
委員	岩槻邦男	放送大学教授
委員	河合隼雄	文化庁長官
委員	中村桂子	JT生命誌研究館館長
委員	梅棹忠夫	国立民族学博物館顧問
委員	鈴木昭憲	秋田県立大学学長
委員	サー・ギリアン・フランス	エデン・プロジェクト科学部長
委員	ベルティル・ノルデンスタム	スウェーデン自然史博物館名誉教授
委員	オーレ・フィリップソン	博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員	A.H.ザクリ	国連大学高等研究所長

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成15年4月現在

委員長	中村桂子	JT生命誌研究館館長
副委員長	村上陽一郎	国際基督教大学教授
委員	井手久登	早稲田大学客員教授
委員	舘取章男	科学ジャーナリスト
委員	加藤雅啓	東京大学教授
委員	川勝平太	国際日本文化研究センター教授
委員	小山修三	国立民族学博物館名誉教授
委員	山岸 哲	(財)山階鳥類研究所所長
委員	イラ・ルビノフ	スミソニアン熱帯研究所長
委員	ピーター・ブリッジウォーター	ユネスコMABプログラム書記官

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)
ギリアントルミー プランス
Sir Ghillean Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)
ジャック フランソワ バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)
吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新たな分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)
ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)
リチャード ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士
1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)
ジャレド メイソン ダイアモンド
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)
ウー チェン イー (呉 征鎰)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)
デービッド フレデリック アッテンボロー
Sir David Frederick Attenborough



イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者
野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)
アン ウィストン スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

※肩書きは受賞時のものです。

資料整備 事業

博覧会に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

博覧会に関する
情報・資料の保管、
陳列、提供等

博覧会の公式記録等、動画フィルムの半永久的な保存のため、その方策等について調査を行いました。(CD-ROM、DVD、業務用HDテープ等へのコピーを検討)

博覧会開催時より行われている「映像による日本植物誌」(PPH:プラントフォトハンティング)の映像フィルムを整理、提供するため、平成12年度からその収集、整理に当たってきましたが、平成15年度現在、約750時間の動画情報に約4,000種の野生種を収録し、データベースとして整理を行うとともに、試作版としてDVDを作成しました。



映像による日本植物誌
2003年3月発行
試作品のため非売

愛知万博等、今後開催が予定されている博覧会および各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を次のとおり行いました。

(財)2005年日本国際博覧会協会	32件
国・地方自治体	2件
企業等	1件

協会事業の情報発信

KOSMOS
フォーラムの
ホームページ新設

平成15年度に実施した「KOSMOSフォーラム」の開催に合わせて、同フォーラムのホームページを新設しました。フォーラムの案内・議事録の掲載等を実施し、同議事録に関する一般から寄せられた意見や質問に対して、コーディネーターが回答する形式での交流を行いました。



<http://www.kosmos-forum.org/>

ホームページ
管理

コスモス国際賞等、当協会が実施する事業の理解促進・普及のためのホームページを更新、維持管理を行いました。

プレスネット
ワークの構築

協会事業の発信性を高めるため、新聞社と共催で下記の事業を行いました。

毎日新聞社大阪本社との共催—小中学校における生態園作り

- ①設置日：平成15年3月2日(火)
場 所：奈良市立鶴舞小学校
内 容：蝶の食草園 16m²
- ②設置日：平成15年3月26日(金)
場 所：豊中市立第四中学校
内 容：蝶の食草園 30m²



普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する調査

日本の伝統園芸
植物の現況と
普及啓発に関する
予備調査

江戸期を中心に品種改良・育種され、世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、現状の把握、植物の保存・活用、栽培・育種技術の継承、組織や人材等に関する情報の収集・整理など予備的な調査を行いました。

KOSMOS
フォーラム

コスモス賢人会議の提言に示された「ACADEMIA COSMOSANA」の具体化を図るため、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につながる具体的活動を実際に展開しながら今後の方向性を探るといふ、社会実験的手法による調査・検討の形をとりつつ実施しました。

第1回 テーマ 自然と人間との共生～「自然を統合的に読むとは」

日 時：11月3日(日) 午後2時～4時

場 所：オーバルホール [大阪市北区]

パネリスト：養老孟司(北里大学教授)

村上陽一郎(国際基督教大学教授)

小山修三(国立民族学博物館名誉教授)

コーディネーター：岩槻邦男(放送大学教授)

参加者：約160名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



第2回 テーマ 自然と人間との共生～「自然にとって人間とは何か」

日 時：11月23日(日) 午後2時～4時

場 所：大槻能楽堂 [大阪市中央区]

パネリスト：川勝平太(国際日本文化研究センター教授)

長谷川眞理子(早稲田大学教授)

岩槻邦男(放送大学教授)

コーディネーター：小山修三(国立民族学博物館名誉教授)

参加者：約90名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



第3回 テーマ 自然と人間との共生～「人間・科学・文明」

日 時：3月7日(日) 午後2時～5時

場 所：オーバルホール [大阪市北区]

基調講演：テーマ「人間の科学」

講 師：河合隼雄(文化庁長官)

パネリスト：松井孝典(東京大学大学院教授)

安田喜憲(国際日本文化研究センター教授)

中沢新一(中央大学教授)

コーディネーター：川勝平太(国際日本文化研究センター教授)

参加者：約370名

共 催：日本経済新聞社大阪本社

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



普及啓発・
継承発展
事業

花の万博基本理念の普及啓発

◆コスモスセミナー

コスモス賞の意義、ひいては「自然と人間との共生」の理念の周知のため、コスモス賞に関係する学者、知識人等を講師に招き、国、地方公共団体および企業等との共催でセミナーを平成6年度から行っています。平成15年度は、前年度に引き続き屋外での自然観察(フィールド型)セミナー並びに講師派遣型セミナーを実施しました。

【自然観察教室】
～生まれ昆虫
好きな子供たち
2003～

日 時：平成15年7月30日(水)～8月1日(金)
場 所：関西学術研究都市高山地区アイアイランド [大阪府四條畷市]
講 師：保田 淑郎(大阪府立大学名誉教授)
西田 律男(京都大学大学院助教授)
谷村 隆文(造形作家)
谷 幸三(関西トンボ談話会事務局長)
南 尚美(奈良生物研究会幹事)

参加者：近畿圏の小学校5・6年生20名
特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団
後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



小学校講師派遣

日 時：平成16年2月13日
場 所：天川小学校 [奈良県吉野郡天川村]
テーマ：生き物が生きていることは
講 師：保田 淑郎(大阪府立大学名誉教授)
参加者：小学4年生、小学6年生 25名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第13回(2003年) 本事業は、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を進めることを目的とし、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたものです。第13回目の今回は、実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、以下のとおり実施しました。

全国花のまち
づくりコンクール

応募数：1,267件
入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各4点をはじめ22点
表彰式

日 時：平成15年12月21日(金)
場 所：虎ノ門パストラル [東京都港区]
受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門
主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会
〔(財)日本花の会、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕
後 援：全国知事会、全国市長会、全国町村会、(社)日本新聞協会、(社)日本経済団体連合会、NHK



ジャパンフラワー
フェスティバル
2003 in
とっとり花回廊

ジャパンフラワーフェスティバルは、花いっぱいの国土、社会、並びに日常生活を実現する国民的運動として、花の万博を契機に農林水産省の提唱により創設されたもので、平成3年度から開催されています。今回は第13回目であり、ジャパンフラワーフェスティバル2003 in とっとり花回廊実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

また、会場内の映像シアターにおいて、記念協会が制作した「花の自然誌」、「葉っぱのフレディーのいのちの旅」を上映しました。
日 時：平成15年10月24日(金)～26日(日)
場 所：鳥取県立とっとり花回廊 [鳥取県西伯郡会見町]
入場者：59,291人
主 催：ジャパンフラワーフェスティバル2003 in とっとり花回廊実行委員会
〔(財)日本花普及センター、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、
鳥取県、(財)鳥取県観光事業団(とっとり花回廊)ほか〕
後 援：農林水産省ほか



◆花の万博開催の地元における普及啓発

博覧会開催の地元において実施される博覧会の理念継承・発展に関する事業に、次のとおり支援しました。

第19回 大阪府 都市緑化フェア

助成先：第19回大阪府都市緑化フェアの実行委員会

概要：同フェアは、花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間中に大阪府内の市町村が持ち回りで開催しています。

平成15年度は、八尾市で開催された第19回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に事業支援を行いました。

日時：平成15年10月25日(土)

場所：八尾市 志紀町西公園

来場者：約4,500人

主催：八尾市、社団法人 大阪府公園・都市緑化協会

内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など



花と緑のまちづくり 総合展示会

—フラワー&ガーデンショー大阪鶴見2003 (FAGOT 2003) —

花と緑のまちづくりに関連する情報や技術、資材等を一堂に集め、市民の花と緑への幅広い関心を高めるとともに、花緑関連業界の交流と活性化を促進するために、花博記念公園鶴見緑地において開催された総合展示会に参画し、事業を助成しました。

日時：平成15年4月11日(金)～4月13日(日)

場所：鶴見緑地 水の館ホール、附属展示場

来場者：8,325人

主催：フラワー&ガーデンショー大阪鶴見委員会

出展：園芸植物・材料・用具の展示、園芸講習会、緑化相談など



第40回 大阪城 菊の祭典

助成先：大阪府菊花連合会

概要：同祭典は、花の万博の理念を継承し、花に満ちあふれた国際都市づくりの一環として、毎年大阪城公園において菊花品評会、菊による会場装飾を行っています。

平成15年度は、第40回の菊の祭典に協力し、伝統的な花文化の代表である菊花の普及や栽培技術の向上を図る事業に助成を行いました。

日時：平成15年10月20日(月)～11月16日(日)

場所：大阪城公園 本丸地区

来場者：約248,000人

実施：大阪府菊花連合会

内容：屋形(花壇式)展示 56点、他に会場各所の菊花装飾



普及啓発・
継承発展
事業

◆その他の普及啓発

花の万博の理念継承および普及啓発に関して、各種団体等が行う行啓事に対し、次のとおり支援、協賛等を行いました。また、次頁の表のとおり後援等を行いました。

都市緑化推進運動 国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4~6月)および都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

IFPRA世界大会 平成16年9月上旬に、静岡県浜松市で開催される「公園レクリエーション世界大会 in 浜松」の組織委員会に参加し、会議内容の策定や広報活動など大会準備のための事業に対して、協賛を行いました。

まちづくり月間 第21回「まちづくり月間」(平成15年6月)における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施に対して、関係団体と共に実行委員会に参加し、協賛を行いました。

近畿都市緑化祭 近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内における行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。

平成15年度は、京都府で開催された「グリーンサーカス2003」に対して事業の支援、協賛を行いました。

日時：平成15年10月25日(土)・26日(日)

場所：京都府立山城総合運動公園

来場者：約10,000人

主催：近畿都市緑化推進連絡協議会

内容：記念講演会、緑化の写真や絵日記等の展示、みどり技術の紹介コーナー、遊具利用安全キャンペーン、緑化相談など



後援等一覧

●催事名(開催期間)	●開催場所	●主催	●名義
大阪府花と緑のまちづくりコンクール (H15.4.1~10.31)	大阪府下	(社)大阪府公園・都市緑化協会	協賛
第23回ハンギングバスケット展 (H15.4.8~4.20)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協会、 咲くやこの花館	後援
第35回大阪花まつり (H15.5.6~5.18)	御堂筋一帯(梅田~難波)、 中之島公園内	大阪花まつり委員会	後援
大阪国際ばら祭り2003 (H15.5.16~5.18)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	(財)日本ばら会関西支部	後援
第5回国際バラとガーデニングショウ (H15.5.16~5.21)	「西武ドーム」 (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングシ ョウ組織委員会	共催
エコ・グリーンテック2003 (H15.5.21~5.23)	「東京ビックサイト」 (東京都江東区)	エコ・グリーンテック実行 委員会、環境緑化新聞	協賛
平成15年度「大阪府立花の文化園幼児・ 小中学生花の絵画展(H15.7.12~9.15)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	大阪府、 (財)大阪府みどり公社	後援
第51回朝顔品評会 (H15.7.23~7.27)	大阪府花と緑の自然の情報セ ンター(大阪市東住吉区)	大阪朝顔会	後援
第24回ハンギングバスケット展 (H15.9.30~10.19)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協会、 咲くやこの花館	後援
大阪鶴見フラワーコンテスト2003 (H15.10.2~10.4)	鶴見はなぼ〜とプロッサム (大阪市鶴見区)	鶴見はなぼ〜とプロッサム 花のカーニバル実行委員会	後援
第8回GIFUフラワーショー(花の見本市) (H16.2.20~2.21)	岐阜メモリアルセンター (岐阜)	GIFUフラワーショー実行 委員会	後援
第14回全国公尊花の美術大賞展 (加西展：H16.3.20~3.28、 大阪展：H16.4.13~4.18)	アスティアかさい(兵庫) 花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	加西市花の美術大賞展実行 委員会	後援

花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博の理念継承及び発展に資する調査、研究等を助成するもので、平成15年度は次のとおり助成を行いました。また、平成16年度より公募する新たな助成制度の方策について検討を行いました。

- | | |
|-------------------------------|--|
| 東アジア(中・日・韓)の観賞園芸の古典書籍に関する調査研究 | <p>助成先：姫路工業大学自然環境科学研究所</p> <p>概要：東アジアの花と緑の文化史、技術史を明らかにするために、観賞園芸の古典書籍を収集し、園芸植物の品種の改良技術、繁殖方法、栽培技術、観賞方法について調査を行い、日本や韓国の花と緑の文化が中国との交流から受けた影響について版本学・書籍学的な研究を行いました。</p> |
| みどりの5団体合同フォーラム | <p>助成先：みどりの5団体フォーラム実行委員会</p> <p>概要：近畿都市緑化祭(平成15年10月25・26日開催)の会場内において、近畿の造園業界団体が企画・運営・実施した、都市緑化や公園管理について楽しみながら参加者が学べるイベント(学生設計コンペ、水景施設や遊具展示、工作教室、自然観察会)に対して、支援を行いました。</p> |
| 園芸療法とイルカを用いた動物介護療法 | <p>助成先：麻布大学 動物人間関係学研究室・ドルフィンプロジェクト</p> <p>概要：心身に何らかの障害を抱える人々を対象に、園芸療法およびイルカを用いた動物介護療法(イルカセラピー)を実施し、自然とふれあう社会教育の場を提供し、人間性豊かな社会を築く一助となる調査研究を行いました。</p> |

花と緑に関する国際交流の推進

海外の大国際園芸博覧会への出展や海外日本庭園の修復等の協力を通じて、花と緑に関する文化や緑化活動の国際的交流の推進を図ることを目的としており、平成15年度は次のとおり実施しました。

- | | |
|------------------------|--|
| 海外日本庭園の修復・管理の基礎となる資料作成 | <p>花と緑に関する国際的な発展および交流に資することを目的として、前年度に、海外における日本庭園の管理の手引き、修復のための資料(英語版)を作成。平成15年度は、継続してその日本語版である「日本庭園の心得」を作成しました。</p> |
| IGA2003への出展協力 | <p>ドイツ連邦共和国ロストック市で開催された2003年ロストック国際園芸博覧会(IGA Rostock2003)における日本国政府を中心とした日本庭園の出展に協力しました。</p> |

IGA 2003の概要

性 格：国際博覧会条約に基づく認定博覧会
 テーマ：人・自然・水 (Man-Nature-Water)
 開催地：ドイツ連邦共和国ロストック市
 会 期：2003年4月25日～10月12日
 実施主体：IGAロストック2003有限会社
 会場規模：約100ヘクタール
 参加国：23カ国
 入場者数：約260万人

日本国政府出展概要

出展内容：日本庭園(面積約500m²)
 テーマ：—自然や宇宙との共生を語る—月と竹の物語の坪庭
 共同出展者：(財)静岡国際園芸博覧会協会
 出展協力者：(財)国際花と緑の博覧会記念協会
 (財)都市緑化基金
 (社)日本公園緑地協会
 (財)公園緑地管理財団



組織運営

理事会 2003年度活動実績

	●日時	●場所	●議題
第37回理事会	平成15年 6月24日(火)	虎ノ門バストラル	平成14年度事業報告並びに収支決算に関する件 評議員の選任に関する件
第38回理事会	平成15年 7月17日(木)	ホテル・ルポール麹町	2003年(第11回)花の万博記念「コスモス国際賞」受賞者の承認に関する件 評議員の選任に関する件
第39回理事会	平成15年 10月1日(水)	花博連絡所	評議員の選任に関する件
第40回理事会	平成16年 1月15日(木)	花博連絡所	評議員の選任に関する件
第41回理事会	平成16年 3月25日(木)	ホテルニューオータニ 東京	平成16年度事業計画並びに収支予算に関する件 会長、副会長等の選任に関する件 評議員の選任に関する件 顧問、参与の委嘱に関する件 役員報酬に関する件 助成事業の実施に関する規程の制定に関する件

評議員会 2003年度活動実績

	●日時	●場所	●議題
第19回評議員会	平成15年 7月23日(水)	花博連絡所	理事の選任に関する件
第20回評議員会	平成16年 1月15日(木)	花博連絡所	理事の選任に関する件
第21回評議員会	平成16年 3月23日(火)	千里クラブ	平成16年度事業計画並びに収支予算に関する件 理事の選任に関する件 監事の選任に関する件

2003年度決算

収支計算書総括表 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで 単位：円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 収入の部					
1.基本財産運用収入	0	0	39,440,000	0	39,440,000
2.記念基金運用収入	0	483,905,184	0	0	483,905,184
3.雑収入	25,585,988	0	0	0	25,585,988
4.特定資産取崩収入	220,000,000	0	0	0	220,000,000
5.繰入金収入	523,345,184	0	0	△523,345,184	0
当期収入合計	768,931,172	483,905,184	39,440,000	△523,345,184	768,931,172
前期繰越収支差額	162,693,116	0	0	0	162,693,116
収入合計	931,624,288	483,905,184	39,440,000	△523,345,184	931,624,288
II 支出の部					
1.事業費	274,472,580	0	0	0	274,472,580
2.管理費	107,495,533	0	0	0	107,495,533
3.繰入金支出	0	483,905,184	39,440,000	△523,345,184	0
4.寄付金支出	220,000,000	0	0	0	220,000,000
5.特定資産支出	120,000,000	0	0	0	120,000,000
当期支出合計	721,968,113	483,905,184	39,440,000	△523,345,184	721,968,113
当期収支差額	46,963,059	0	0	0	46,963,059
次期繰越収支差額	209,656,175	0	0	0	209,656,175

貸借対照表総括表 平成16年3月31日現在 単位：円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 資産の部					
1.流動資産	222,557,322	110,093,699	9,567,560	記念基金会計未収金 △110,093,699	222,557,322
2.基本資産	0	0	800,000,000	基本財産会計未収金 △9,567,560	800,000,000
3.その他の固定資産	191,748,049	9,200,000,000	0	0	9,391,748,049
資産合計	414,305,371	9,310,093,699	809,567,560	△119,661,259	10,414,305,371
II 負債の部				一般会計未払金	
1.流動負債	12,901,147	110,093,699	9,567,560	△119,661,259	12,901,147
2.固定負債	31,758,200	0	0	0	31,758,200
負債合計	44,659,347	110,093,699	9,567,560	△119,661,259	44,659,347
III 正味財産の部					
正味財産	369,646,024	9,200,000,000	800,000,000	0	10,369,646,024
負債及び正味財産合計	414,305,371	9,310,093,699	809,567,560	△119,661,259	10,414,305,371

事業実績 (1991.11~2004.3)

記念協会では、「コスモス国際賞」以外にも、国際フォーラム（「コスモス賢人会議」）の開催、「コスモス国際賞」の意義と花の万博の理念を広く社会に普及させる「コスモスセミナー」の開催、花と緑に関する文化の発展に寄与する国際交流事業など、世界を視野に入れた独自の事業を展開しています。

「コスモス国際賞」 受賞者特別講演会

「コスモス国際賞」の意義の社会への浸透と、花の万博の理念の普及のために、「コスモス国際賞」受賞者による特別講演会を随時開催しています。



受賞記念講演会

コスモスセミナー

「コスモス国際賞」の意義とねらいを広く社会に普及させることと、人々の科学に対する関心を引き出すことを目的として、1994年度から毎年開催しています。自然科学、都市計画、人文科学、地域の人々のふるさと再生の取り組み、児童を対象にした自然観察教室など多様なテーマ、形態で開催しています。また、コスモスセミナーの内容を記録集にまとめて刊行しています。



コスモスセミナー「都市における自然と人間との共生」



コスモスセミナー「生まれ昆虫好き女子供たち」

コスモス賢人会議

世界中の知恵を集結し、新しい科学の枠組みを創造するために、自然科学分野の世界の学識経験者に呼びかけて「コスモス賢人会議'95」および「コスモス賢人会議'98」を開催しました。また「コスモス国際賞」の国際的な認知度を高め「ACADEMIA COSMOSANA」の創設を視野に入れて、世界の学者や知識人の交流の場として、紙上フォーラム「コスモスレター」を発刊しました。



コスモス賢人会議'95



コスモス賢人会議'98

国際交流事業

花と緑に関する文化の興隆と、緑化活動の国際的な交流およびその発展に寄与することを目的として、国際園芸博覧会への出展協力、海外の日本庭園の修復事業を行いました。



国際園芸博覧会アメリカフロラ'92の出展日本庭園



イギリス王立キュー植物園ジャパニーズゾーン修復に協力(1994年)。竣工記念式典で花束を受けられる紀宮殿下(中央)とアレキサンドラ王女殿下(右)、フランス博士(左)

花の万博周年事業

花の万博開催2周年（1992年）、5周年（1995年）、10周年（2000年）にあたる各年において、さまざまな記念事業を行いました。



花の万博20周年記念メモリアルコーナー（鶴見緑地）



花の万博5周年記念思い出の写真展（鶴見緑地）



花博会議ミレニアム2000&記念コンサート（いづみホール）

出版・情報発信事業

出版物

-  「コスモス国際賞報告書」（1993年～2003年）
A4版 72頁
-  日本庭園の心得
基礎知識から計画・管理・改修まで
2003年3月発行
A5版 352頁 定価4,762円（税別）
毎日新聞社
-  人類の生存を支えた模倣農耕
イモとヒト
2003年8月発行
B5版 358頁 定価5,500円（税別）
平凡社
-  都市の時代 大塩洋一郎都市論集
2003年12月発行
A5版 316頁 定価2,500円（税別）
新樹社
-  思索の旅 大塩洋一郎随想集
2003年12月発行
B6版 192頁
-  財団法人国際花と緑の博覧会記念協会10年史
2001年11月発行
A4版 116頁
-  「科学は21世紀をつくれるか」コスモス賢人会議'95
2000年6月発行
A5版 181頁 定価1,500円（税別）
春秋社
-  「新しい統合の知を探る」コスモス賢人会議'98
2000年6月発行
A5版 187頁 定価1,500円（税別）
春秋社
-  「人と自然」雲南学術討論会詳細
造園、園芸、資源植物
2000年11月発行
A4版 160頁 定価2,000円（税込）



花博10周年記念誌「生命の祭典」
A4幅広版 120頁
定価1,800円（税別）



コスモスセミナー記録集（1～8）
A5版 各500円（税込）



国際花と緑の博覧会公式記録総合編
A4版 571項 定価8,600円（税別）
国際花と緑の博覧会公式記録写真集
A4版 351項 定価8,600円（税別）

ビデオ



「葉っぱのフレディーのちのちの旅」
VHS 23分 定価2,500円（税別）
ナレーション 広末 涼子



国際花と緑の博覧会メモリー（ドラマ）
「花と緑の約束」
VHS 60分 定価3,000円（税込）
出演 望月 知子、若林 志穂 他



国際花と緑の博覧会公式記録ビデオ
「花と緑と人と」183日間の出会い
VHS 60分 定価4,600円（税込）



中国'99昆明世界園芸博覧会日本庭園出展記念
「植物の宝庫・雲南」VHS 35分
（企画・製作 1999年昆明世界園芸博覧会
地方公共団体等共同出展実行委員会）

ホームページ



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会の
ホームページの作成・更新
URL <http://www.expo-cosmos.or.jp/hanahaku/>

2004年度（平成16年度）事業計画

博覧会に関する記念事業

1.2004年（第12回）「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2004年（第12回）「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成16年度は、第12回目の受賞者の選考、決定および2005年（第13回）の選考準備を行います。第12回の受賞者は7月中旬を目途に承認、発表し、秋季に授賞式を開催します。

2.受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成16年秋

開催場所：東京と大阪の2カ所

博覧会に関する資料の整備

1.映像による日本植物誌事業（PPH：プラントフォトハンティング）

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物映像（750時間・約3,700種）のデータベースの活用方策について昨年度に引き続き検討し、具体的な活用を目的としたビデオを作成するとともに、未収録の植物映像の撮影を行っていきます。

2.花の万博映像の保存事業

花の万博開催時に撮影されたハイビジョン等の動画、記録映像の保存のためデジタル処理等を行います。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1.理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、昨年度に引き続き、その現状の把握、植物の保存・活用、技術の継承、人材の育成等に関する調査を実施します。また、伝統園芸植物の保存・活用をめぐる様々な課題について、関係者による分野を超えた情報交換と議論の場となる「円卓会議」などを開催します。

◆中長期ビジョンの調査・検討

当協会の今後の事業のあり方について、財政見直しをもとに、中長期の視点から総合的な調査・検討を行います。

2.理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の「自然と人間との共生」という理念の継承発展を図るため、コスモス賢人会議（平成7年及び10年に開催）で提唱された「アカデミア・コスモサーナ」の具体化として、自然科学、人文・社会科学等の各分野を超えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の「自然と人間との共生」の理念の継承と啓発を目的として、「コスモス国際賞」に関係する学者、知識人等を講師に招き、関係団体との共催でセミナー（自然観察教室など）を実施します。

3.花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省ならびに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成16年度は14回目を迎えます。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)日本花の会、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、
(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱい国土、社会ならびに日常生活を実現するため、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているもので、平成16年度は14回目を迎えます。

ジャパンフラワーフェスティバルしずおか2004

主催：ジャパンフラワーフェスティバルしずおか2004実行委員会

〔(財)日本花普及センター、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、関東地域花き普及振興協議会、浜松市、静岡県花卉園芸組合連合会、(財)静岡国際園芸博覧会協会、静岡県〕

期日：平成16年5月22日（土）～30日（日）

会場：浜名湖花博「国際花の交流館」

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元として実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

4.花と緑に関する国際交流の推進

国際園芸博覧会への出展、海外日本庭園の実態等に関する情報収集、並びに、関係機関、団体との連絡調整等を行います。

5.花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展に資する調査研究及び技術開発、並びに普及啓発に資する活動および行催事等を支援するため、公募による助成を行います。

6.情報発信運営に関する業務

◆協会業務の情報発信

当協会が実施する事業等への理解促進および普及のための協会のホームページを新たに開設するとともに、「コスモス国際賞」、KOSMOSフォーラム等のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレットおよび年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築

「コスモス国際賞」をはじめ、その他協会事業の認知度を高めるため、プレスとの共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆情報収集発信事業

花の万博理念の普及啓発に資するため、「コスモス国際賞」の意義、受賞者の研究業績、記念講演会、授賞式の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等のほか、受賞者の所属する機関との提携により各種の情報を収集し、これらの活用を行います。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/hanahaku/>

表紙の写真：2003年（第11回）コスモス国際賞受賞者レーブン博士の研究対象である
アカバナ科マツヨイグサを授賞式用にデザインしたコサージ・ブートニアです。